

守大助さん面会記 えん罪・仙台北陵クリニック事件

1月29日(月)晴 茨城の会 竹村さん

早めに到着し昼食をとり、刑務所の売店で差入れの(ハガキ、切手、日用品等)を購入。お手頃の靴とベルトがあったので自分のお土産に買いました。

今日は面会が多く待合室で50分ほど待たされました。大内さんと私は初めてで緊張していました。どういう態度で何を話そうか?思っていると番号が呼ばれ面会室に入り座ると大助さんが入って来て、「こんにちは」「いつもお世話になっております」と声をかけられました。

自己紹介をしながら私は初めてお会いする大助さんを今までチラシや横断幕での顔写真を見ただけだったのでびっくりしました。それは、無実の罪で17年間闘っている精悍な顔立ちにでした。

私は2点について話しました。大助さんの家庭環境が少しにていること、「父が元警察官、妹や姪が看護師であること」「10月に宇野朱音が面会に来たことを覚えていますか」大助さんは「覚えている」と、その彼女が11月の救援会茨城県本部大会で面会の様子を声を詰まらせながら報告をすると参加者が感動されたことを大助さんに話しました。

大助さんは「裁判官に対して証人尋問をきちんとして欲しい」一日も早く家族全員で本当の春が来てほしいと、訴えてきました。

私たちは、大助さんの思いや訴えを実現するために、今出来ることをやりきり、弁護団、救援会、各地の支援する会が一体となって知恵を出し、必ず再審開始を勝ち取るために頑張ることを改めて決意しました。



鰯の水揚げ風景 九十九里漁港

えん罪・仙台北陵クリニック事件

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行う。



寒いと思っても春は来ます
福寿草

1月4日(木)ご両親

今年初めての面会。受付番号5番でした。年始めなので15人以上が受付待ちで、受付室に入れない人がおり赤ちゃんや子どもさん連れで混雑していました。

面会はスムーズでした。いつものようにニコニコしながら面会室に入って来て新年の挨拶から始まりその月の代休を記録して本題に、昨年の面会者に感謝しながら、滋賀県の湖東記念病院の看護助士の最高裁再審決定がなされたことに注目、特に阿部弁護士の面会もあり科学的判断をと、流れがに期待している様子でした。年賀状は3日まで545通。一人ひとりが励ましや温かい添え書きをして頂き心強いと感謝しておりました。仕事は一日立ち仕事でまだ慣れず、昨年10月頃から膝に水が溜まり抜いてもらったと体の衰えにも気にしながら仲間に美味しい食事をとる年度内判決に意欲的でした。

激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 **2018年 114号**

●2月の面会日は決まりました。3月は月初めにメール等お知らせします。救援会神奈川県本部に問い合わせを。

□面会申込み/□ 国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

E・mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp

1月29日(月) 茨城の会 田村武夫さん

茨城の会から3名で面会した。鷲尾救援会千葉県本部会長と共に手続き室に入ったときは先着者が多数いて私たちの面会時間が遅れて2時過ぎの面会となった。待ち時間が長かったので注意事項・張り紙などすべて読み、規制の厳しさを再確認した。

後で判ったことだが、午前中での面会手続きが遅れると面会開始が午後になることもあるらしい。

マスクをされた大助さんを見たとき、風邪を引いてるのかなと見間違えた。予防のためといわれ、隣席の刑務官もマスクをしていたので、房舎内での予防対策は徹底していることが推測された。面会者も協力する必要があると感じた。

会話は仙台で開かれる全国集会(2月4~5日)であった。厳寒の市内をパレードする各地からの参加者を気遣って「風邪を引かないように」「事故に遭わないように」といつつ、大勢の支援者が参集して市民へのアピールや高裁要請、記者会見など自分の裁判への関心が高まることへの期待を明るく話されていたのが印象的でした。

裁判官が自分の提出した上申書や弁護団の準備書面、鑑定書をきちんと読んでくれることが自分の最大の願いであると強くいわれていたのが胸に残り、

全国集会の一環として行われる仙台高裁への要請行動でその旨を明確に述べるのが私の務めだと思いながら、時間が来て別れ告げた。

千人を越す食事の下ごしらえについて、苦労話はいわず淡々と実情を話すだけで、仙台生まれだから冬の寒さは気にならない、むしろ夏の方が体調は良くないなどと、笑みを浮かべながら話す大助さんの顔が今も浮かんで来て、「耐えているんだな、早く解放させなければ」と自分に言い聞かせている日々です。



茨城の会
左から
田村さん
竹村さん
大内さん

1月29日(月) 茨城の会 大内逸雄さん

私は、大助さんの面会は初めてだったので待合室にいるときには、何を話していいのか少し緊張しながら順番を待っていました。すると刑務官から呼び出しがあり、面会室に入ると第一印象が狭い部屋だなと思っているうちに大助さんがにこやかな顔をしながら入って来ました。

今まで写真しか見てなかったのですが、髪の毛を短くして精悍な顔つきでした。残念なのは、インフルエンザ予防のためマスクをしていたために顔を見る事ができなかったことでした。それでも終始目にはこやかに笑って元気な声で話ができ、こちらも元気をもらいました。

1月17日に仙台高裁の要請行動に参加してお母さんに会ってきたことを自己紹介しながら話をしました。

調理場で1000人分の料理の下拵えのしごとをしていて、一番辛いのは冬場なので水が冷たいことだそうです。独房には暖房がないが寒さは平気だが、夏の暑さの方が体にこたえる、連休があれば少しでも休めるといっていました。5日の高裁要請は茨城から20名を目標に参加することを伝えました。

面会は、多くの人が行くことでお互いが元気になるので大事なことと思います。色々聞きたいことがありましたが30分の時間が過ぎてしまいました。また面会に来たいと思いながら帰路に着きました。

1月31日(水) 久しぶりに暖かい日

とても天気の良い午後、いつもと変わらない笑顔の大助さんと再会した。「何年ぶりかな・・・いつもありがとね」そんな優しい言葉をかけてもらった。会えば昔に戻ったように軽いノリの雑談。お互いの近況を話し合うと時間はあっという間に過ぎてしまう。大助さんは膝に水が溜まって何回も抜いたこと、朝目覚めたら起きるまでに体を温めないと辛いこと、なんかを話してくれた。慣れない仕事のせいなのかな・・・

なんて思って聴きながらも笑顔を絶やさない大助さんの強さを感じた。最後に最高裁の話は少しだけ「棄却するなら延ばさないで欲しい、期待させないで欲しい」大助さんの心からの声。大助さんはあんな事件を起こす人ではありません。

社会人に成り立ての私にも患者さんと同じように接してくれた優しい人です。一日も早くもどってこられるようにこれからも出来る事を頑張ろう！と気持ちを新たにしました。

佐々木直美さん(秋田市)